

れんけいと支援

地域の医療・保健・介護・福祉の方とともに、皆様の健康をお守りします

Face to Face,

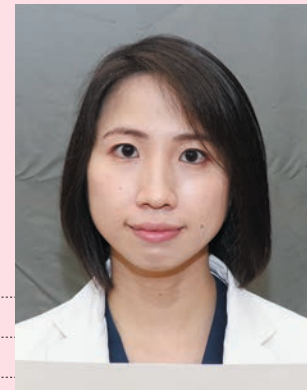
Heart to Heart

富山市今泉北部町2-1 / Tel: 076 (422) 1112(代) <http://www.tch.toyama.toyama.jp/> / 発行日 2023年2月

異物誤飲 up to date

小児科

和田 優子

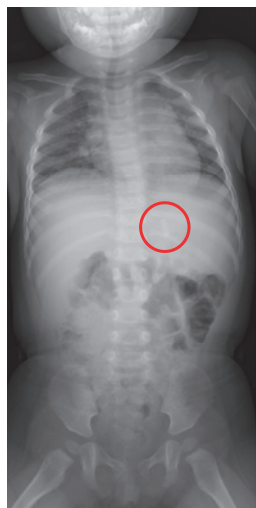


近年では加熱式たばこの台頭により小児の誤飲事故に変化が起きています。最新型の加熱式たばこフィルターには小さな金属片が内包されており、フィルターの誤飲で腸管損傷の恐れを考える必要が出てきました。紙巻きたばこの誤飲では主にニコチン中毒症状の有無が重要でしたが、加熱式たばこのフィルター誤飲ではそれに加えて、体内異物の有無や損傷なく排泄されたかどうかについてもフォローしていくべきと言えます。

小児の成長・発達面を考えると、予防対策を行わない限り誤飲事故はほぼ必発だと推測されます。日常診療や健診・予防接種業務に際し注意喚起を行っていますが、残念ながらすべての事故をなくすことはできません。異物誤飲の約8割は自然排泄され

るとされますが、残り2割は摘出の対象となります。

当院では消化器内科や麻酔科と連携し、小児における内視鏡下異物摘出術を行っています。ボタン電池や複数個の磁石等の緊急を要するものから、サイズが大きく胃内に長時間停留するため摘出を、といった不急なものまで可能な限り対応いたします。その他、鋭利な異物で消化管穿孔の恐れがあるような症例のフォローも行っております。日常診療で気がかりな異物誤飲症例がいらっしゃいましたら、当院へご紹介いただくと幸いです。



患者家族より提供



1. 地域連携症例検討会（ハイブリッド開催）

※会場またはWEBでの参加が可能です。

※令和4年4月の開催から、症例検討1例30分、ミニレクチャー1題30分で開催しております。

ご参加のほどよろしくお願いいたします。（日本医師会生涯教育制度のカリキュラムコードの付与は、今までと同じ2つとなります。）

日時：3月14日（火） 19：00～20：00

場所：当院3階 講堂

1) 症例検討

『甲状腺機能低下症による心嚢水貯留の診断にCA125測定が有用であった症例』

内分泌内科 毛利 研祐

2) ミニレクチャー

『多発性骨髄腫について』

血液内科 寺崎 靖

多発性骨髄腫は、形質細胞の単クローン性（腫瘍性）増殖と、その産物である単クローン性免疫グロブリン（M蛋白）の血清・尿中増加により特徴づけられる代表的な造血器腫瘍の一つです。わが国の2015年における粗罹患率は人口10万人あたり5.61人で、診断時の中央値は67歳、全悪性腫瘍の約1%、全造血器腫瘍の約10%を占めています。臨床所見として、骨痛、貧血、腎障害、高カルシウム血症、易感染性、神経症状などが挙げられます。

全身化学療法の対象となるのは「CRAB」と称される臓器障害、すなわち前述の高カルシウム血症、

腎障害、貧血、骨病変（これらを「骨髄腫診断事象」と言います）のうち1つ以上を有している「症候性多発性骨髄腫」となります。

治療は基本的に65歳未満で重篤な合併症を有さない患者には自家造血幹細胞移植併用大量化学療法を、それ以外の患者には化学療法を施行します。難治性の疾患ですが、近年、プロテアソーム阻害薬、免疫調節薬、抗体薬などの新規薬剤が続々と登場し、予後は飛躍的に改善されています。

今回は、多発性骨髄腫を疑うポイントを含め、わかりやすく解説させていただきます。

予告

日時：4月11日（火） 19：00～20：00（ハイブリッド開催）

場所：当院3階 講堂

内容：①症例検討1例（担当）形成外科

②ミニレクチャー1題（担当）外科

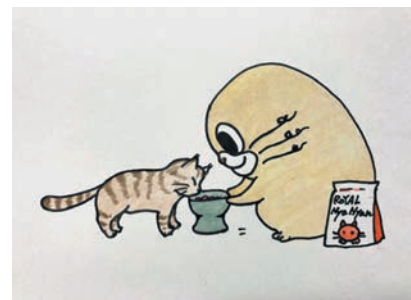
地域連携症例検討会に関しては、今後もWEBを利用したハイブリッド方式で開催していくことを計画しています。つきましては、ZOOM会議のご案内に関して参加される先生方の利便性に鑑みURLならびにQRコード等をお送りするため、下記のメールアドレスへ①貴施設名②氏名を明記の上、メール送信いただきますよう、よろしくお願いいたします。一度登録していただければ今後継続してご案内をメールでお送りいたします。

ttm2168@tch.toyama.toyama.jp

（ふれあい地域医療センター 地域医療連携室）

2. 定例の研修会、看護研修

※COVID-19の状況を見ながら再開の予定です。



作：病院ボランティア 篠崎 佳子



研修医のひとりごと

臨床研修医
守屋 裕貴



初期研修医2年目の守屋です。
2年前の4月に富山市民病院で研修が始まったことが、昨日のこのように感じられます。振り返れば感謝の気持ちと楽しい思い出が詰まった2年間でした。

富山市民病院で研修してよかったと一番に思うことは、病院全体の居心地の良さです。個性が強く、笑いが絶えない研修医同期達。研修医室でのくだらない会話も、毎日の楽しみの一つでした。どの診療科の上級医の先生方も、指導熱心で優しく、研修医の成長のために必要な指導を行っていただきました。時には厳しく、自分で考えることを促されました

が、その指導が自身の成長に繋がったと考えております。また、コメディカルの方々には、沢山の迷惑をお掛けしたと思いますが、未熟な自分達を「先生」と呼んでいただき、温かい目で見守ってくださったこと、心から感謝しております。このような素晴らしい環境だったからこそ、2年間の研修生活を乗り越えることが出来たと考えております。

さて、今年の4月からはいよいよ整形外科専攻医として新たな生活が始まります。不安はつきませんが、富山市民病院で学んだことを活かし、患者様に還元できるよう精進していく所存です。お世話になった皆様、2年間本当にありがとうございました。

医師不在のお知らせ

※外来担当日の休診のみ掲載

3月

科名	医師名	不在日	科名	医師名	不在日
内科	桶家	17日、23日	麻酔科	本多	31日
	大田聡	3日		篠田	23日
	水野	27日		真鍋	20日
	茶谷	29日	精神科	仲間	30日
	毛利研	29日、30日、31日	形成外科	宮下	20日
	遠藤	27日		岸田	31日
外科	名倉	2日、30日	皮膚科	野村佳	27日
	山崎	29日	呼吸器・血管外科	酒井	23日、24日
	菅野	28日、30日	眼科	高松	27日～31日
泌尿器科	児玉	30日	耳鼻いんこう科・頭頸部外科	辻	27日
整形外科・ 関節再建外科	重本	17日、20日	歯科口腔外科	朽名	20日
	岡本	17日			

※その他、急に不在となることがありますので、ふれあい地域医療センターまでお問い合わせください。TEL 076-422-1112 (代) 内線2168

編集後記

節分では恵方巻の色とりどりの食材に春を感じ、福来る1年でありますようにと豆をまきました。最強寒波に凍えたのはつい先日だったのに、立春を迎え暖かい日が続いています。カレンダーには、2月19日雨水(雪ではなく雨に変わる頃)、3月6日啓蟄(冬眠していた虫が出て来る頃)・響きも柔らかな春の訪れを感じる言葉が続きます。感染症の流行により急な休暇を取ることがあるかもしれないと心配し、「今日できることは今日のうちに」と追われるように毎日を過ごしてきました。季節の移ろいの中で時にはゆったりと構える日があってもよいなあと考える今日この頃です。

精神デイケア科 中村里佳

「れんけいと支援」に関するお問い合わせは、ふれあい地域医療センターまでご連絡ください。送付を希望されない方はお申し出ください。

TEL 076 (422) 1112 (代) / FAX 076 (422) 1154
メールアドレス fureairenkei@tch.toyama.toyama.jp



ホームページ <http://www.tch.toyama.toyama.jp/> がん何でも相談室：メールアドレス shien@tch.toyama.toyama.jp